プラごみ「油田」に

平塚のベンチャー 卓上装置で環境教育

廃プラスチックを石油に戻す装置の開発、販売を手掛ける平塚市のベンチャー企業「プレスト」（伊東昭典社長）の卓上型油化装置が国内外の教育現場や研究者らの注目を集めている。「子どもたちの関心を集めることが、環境問題の解決には遠回りのようで近道」と同社。フランスで今月末から開催される気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）に合わせ、現地で装置を展示する。（鈴木 美帆子）

卓上式の油化装置を環境教育に役立てる伊東社長＝立塚市

同社が油化装置の開発、販売を始めたのは、2001年。輸出先はこれまでに約40カ国に上り、アイスランドやスロバキアには精製量の多い大型装置を納品した。年明けには政府開発援助（ODA）を通じてパラオにも納入される。

環境教育に使用する卓上装置は重さ約50㌔で持ち運びが容易。牛乳パックのふたやレジ袋、透明フィルム包装など、身近にあふれるポリエチレンやポリプロピレンを投入し、420度前後の高温で溶かすとガスが発生。そのガスをゆやすことで、1～2時間程度で油として精製される。

同社は04年に海老名市のリサイクル組合から実演依頼を受けたのをきっかけに、小学校から大学まで、幅広い教育現場で装置を使った環境教育を始めた。その名も「スクール油田」。

伊東社長は「ごみの減量や資源兵利用に役立ち、子どもたちに分別意識が身に付く。環境問題への関心を高める機会になれば」と狙いを説明する。「県内全世帯できちんと分別に取り組めば、大規模の〝油田〟ができますよ」

廃プラ1㌔から約1㍑の混合油ができるといい、蒸留機にかければ軽質油（ガソリン、灯油、軽油、重油相当の油に分けられる。混合油のまま使える発電機も開発した。催し会場ではこの精製油を電源に用い、綿あめやポップコーンを作って親子連れを喜ばせる。

こうした取り組みに、同社の油化装置や再資源化の理念に対する期待は業界を超えて広がる。感染リスクの少ない医療廃棄物のプラスチックを分別し、同社の装置で〝燃料油〟に再生する実証実験が部内の病院で年度内にも始まる予定のほか、燃料の乏しい地域でも再生油で発電できる仕組みなどを国立大学院大学理工学部、産業技術総合研究所（茨城県つくば市）との3者で構築することが決まった。

今月には、同社と親交があり、プラごみによる海洋汚染を調べているスイスの環境保護団体「レース・フォー・ウオーター」がCOP21開催に合わせフランス著名する際、同団体のソーラーパネル船で卓上油化装置を展示する予定。伊東社長は「身近な過疎化対策として例えば、油化可能なプラスチックを全て国際統一マークができれば、再資源化の取り組みがさらに広がるでしょうね」と話し、議論の行方に強い関心を寄せている。

挑む 中小企業 第32回神奈川工業技術開発大賞 ⑥

奨励賞

日本エレクトライク（川崎市中原区）

〝現代版〟オート三輪

川崎生まれの新しい三輪自動車「エレクトライク」の本格販売が8月から始まった。電気駆動で走行安定性に優れる、三輪自動車の〝現代版〟。今年6月には国土交通省の型式認定を取得し、国内で16番目、19年ぶりに誕生した自動車メーカーとして、新たなスタートを切った。

昭和30年代を中心に人気を集めた三輪自動車。手頃な価格と小回りが利く半面、四輪車に比べてバランスが悪く、軽自動車の普及に伴い姿を消した。松波賢社長（67）は「二輪車と四輪車の長所を併せ持ち、倒れにくい三輪車を造りたい」と課題解消に立ち上がった。

かつて自動車販売会社で〝働きながらラリーレースに出場したという松波社長。2008年に日本エレクトラックを設立し、次世代型車両メーカーとして改良を重ねた。設立に先立ち03年から同社営の母校・東海大学の設島敏雄名誉教授と開発に着手。左右の後輪それぞれにモーターを取り付けて車輪の回転数を調整したほか、車体の低重心化を図り安定したコーナリングを実現した。

家庭用コンセントからリチウムイオン電池に充電できる手軽さも特徴だ。1回の充電（10時間）で最大60㌔走行可能。最高速度は約50㌔。約150㌔までの荷物を積めるとあって、スーパーや生花店などから熱い視線が注ぐ。

走行安定性に優れた電気三輪自動車「エレクトライク」と、開発に携わった松波社長＝川崎市中原区

◆日本エレクトライク 2008年10月設立。資本金9000万円。電気三輪自動車の開発・製造・販売・保守ほか。従業員数3人。川崎市中原区上小田中。

（鈴木 美帆子）

「総菜ゾーン」刷新

京急百貨店 付加価値高め35店に

京急百貨店（横浜市港南区）は5日、地下1階食品売り場の「和菓子・和総菜・銘店ゾーン」をリニューアルオープンした。付加価値の高い商品を取り扱うことで、既存顧客とともに、より幅広い世代にも積極的にアプローチしていくという。

コンセプトは「おいしいが見つかる、私のお気に入りのダイニング」。横浜・野毛の精肉店「尾島商店」の揚げ物など、出来たての

5日にオープンした「PAOPAO」の商品を買おうと並ぶ人たち＝京急百貨店

内 15年度上期新車販売台数 県 2年連続前年割れ

神奈川トヨタ自動車がまとめた2015年度上期（4～9月）の県内新車販売台数は、前年同期比3・6%減の13万1514台と

なり、2年連続で前年を下回った。登録車（排気量660cc超）は1・1%増の9万8894台で3年ぶりに前年を超えた一方、軽自動車が15・6%減の3万2620台と4年ぶりに前年割れとなり、全体を押し下げた。同社は「全体として14年4月の消費増税の影響をさきすっている」と指摘している。

登録車のうち乗用車は6・1%減の4万9070台と2年連続で前年を下回った。中でもサイズの小さい2ボックス車は15・6%減と落ち込みが目立った。

一方、ステーションワゴンは12・9%増の5159台と2年連続で増加。純輸入乗用車も7・9%増の1万763台で2年ぶりに増加に転じた。「株高などアベノミクス効果の影響とみられる」（同社）という。

RV車は9・4%増の3万6490台で2年連続の前年超えとなり、登録車全体を引っ張った。

軽自動車の市場全体に占める軽比率は3・5%ほど下し、24・8%だった。同社は特に軽自動車については「2011年10月ごろ以降の好調ぶりに一服感がある。今年4月からの軽自動車税の税率引き上げも一因となって

ティーうんじ

「事業の柱の一つとして、海外展開を重視している。アフリカや東南アジア、南米など

だまだ伸びる余地がある」。日本たばこ産業（JT）の福地浩一執行役員・たばこ事業本部渉外責任者は、たばこ事業のグローバル化を推進することに意欲を示す。

たばこ製品で販売に力を入れてい

総菜を提供するほか、全国の老舗飲食の品ぞろえを拡大していく。同ゾーンには点心専門店「PAOPAO（パオパオ）」と地元の和菓子専門店「横濱しげた」の2店舗が新規オープン。同ゾーンではリニューアルする33店舗を含め、計35店舗体制となった。

商品をカテゴリーごとに再配置することで、より探しやすいように改善するほか、ゆとりができるなど、売り場の拡大していく。同ゾーンには点心専門店「PAOPAO（パオパオ）」と地元の和菓子専門店「横濱しげた」の2店舗が新規オープン。同ゾーンではリニューアルする33店舗を含め、計35店舗体制となった。

商品をカテゴリーごとに再配置することで、より探しやすいように改善するほか、ゆとりができるなど、売り場の

デパ地下に進めてお

生鮮食料品価格 5日
（単位キロ当たり円、鶏卵は1パック10個入り）
リンゴ 山形10㌔～3786―2700
カキ 奈良7.5㌔～2700―1080
◇鮮魚
マダイ 梅
イワシ 1080―681
開きアジ 松1224―43
チリメン 2916―135
マキ 雪
丸干しノドグロ 645―99
開きサバ 松1652―43
開きサンマ 松864―33
カキ（富有） 山形10㌔～4320―
（富有） 岐阜10㌔～3730―
福岡10㌔～3024―
◇塩干魚
塩サケ トキ
塩カズノコ 各地2160―1188
シラス干し 各地1404―972
寒干し 各地1080―540
処理数 57 販売数 53
高値 安値 平均
ブリ 508 423 463
ブリ 490 413 445
ブリ 476 376 420
ブリ 510 310 410
ブリ 510 310 410
ブリ 510 310 410